

No.26	踏み出し		
氏名	大森 まあや	薬学研究科	M1
1. 出願時のテーマ・目標を具体的に記述してください。			
<p>テーマ：ツリークライミングを通じた自然環境保護活動 ～木と友達になろう～ ツリークライミングは、専用のロープやサドル（安全帯）、安全保護具を利用して木に登り、木や森、自然との一体感を味わう体験活動です。「樹上から」という今までとは違う視点で森を見たり、五感を使い樹上の自然を体感すると新しい発見があります。家族や友人と同じ木に登って時間を過ごしたり、ツリーポート（ハンモックの一種）を使って木の上でキャンプをしたり、バードウォッチングや自然観察をしたりと、楽しみは無限大です。ツリークライミングをして木と友達になり、心の中に自然を大切に作る「心」が育てることを目指しています。</p>			
2. 上述のテーマ・目標を実現するために実施した計画を具体的に記述してください。			
<p>・2020年7月～9月：京都府で開催されている体験会（月1～2回程度）にアシスタントとして参加し、体験会を開催するための技術を習得します。</p> <p>・2020年10月～12月：体験会を開くための資格取得のため、講習会に参加します。また、資格を取得するための技術向上として、京都府で開催されている体験会（月1～2回程度）にアシスタントとして参加します。</p> <p>・2021年1月～3月：この期間は、気候の影響でツリークライミング体験会はお休みです。そのため、体験会に参加しての技術習得はできませんが、知人の所有する森でインストラクターに必要な技術を習得するため、練習します。</p>			
5. 今回（今年度）の取り組みについて、今後の活動展開と展望を記述してください。			
<p>今後は、コロナウイルスの影響を鑑みながら、立命館大学BKCキャンパスでのツリークライミング体験会開催に向けて活動を続けたいと考えています。立命館大学BKCキャンパスで開催することで、在学生や近隣の子供たちに大学の中や自分のまわりにも守るべき自然があるということを伝えるきっかけを作りたいと考えています。普段の生活とはかけ離れた視点で世界を眺めると、新しい何か生まれるかもしれません。また、ツリークライミングにより、BKCキャンパスの自然を守り、緑豊かなキャンパスをこれからも維持することに繋がります。また、地域と大学を結ぶ架け橋ともなるため、大切な活動だと思えます。</p>			
6. 今回（今年度）の取り組みは、今後の学びや進路にどのように影響しますか。			
<p>以前より、人々と地球に貢献できる仕事がしたいと考えています。そのため、今回のツリークライミングという取り組みは、自然を大切にする環境を少しでも広げられたと考えています。将来の進路としては、現在の研究内容を活かしつつも、地球を守ることを目標に、進路決定をしたいと考えています。</p>			
7. 今回（今年度）の活動が周囲に与えた影響（社会・周囲）への貢献・還元の点で記述してください。			
<p>ツリークライミングを体験した人を一人でも多く増やすことで、自然の大切さを身を持って実感し、心の片隅にでも、自然について考える気持ちが生まれることで、20, 50年後の環境保護に繋がります。また、外に出て自然と触れ合い、体を動かすことで、精神疾患を患っている方や不登校の子供達のサポートにもなります。新型コロナウイルスで外出するのが億劫になっている学生の大きな一歩となればと思います。また、木に登るだけでなく、木の葉を撒いたり、植林したりと10年, 20年後にも、今ある自然を残し、増やす活動も同時に行っています。</p>			

3. 個人の成長の軌跡3-1. 取り組みの過程でどのようなことがあったのか、グラフを作成してください。	
3-2. グラフで書いた☆（個人がもっとも成長したと思うポイント）では、その過程で学んだこと、気づいたことについて具体的に書いてください。	
<p>資格取得の講習を受け、普段の体験会で発揮できるスキルやリスク管理を学ぶことが出来ました。また、樹上でのレスキューによる安全の確保が出来るよう、消防署が主催する上級救命講習も受講し、安全な体験会の開催に向けて自己のスキルをレベルアップできたと考えています。</p>	
3-3. “今回（今年度）の取り組み”と“正課の学びや取り組み”は、どのような関連や影響（相互作用）がありましたか？	
<p>正課では薬学を専攻し、研究活動に励んでいます。一見、ツリークライミングとは関連がないように見えますが、教えていただいたことを吸収し、自身のスキルとして高め続け、目標を達成するという過程は同じであり、どちらにも良い影響を与えていると考えています。また、幅広い年齢層の方と共に仲間として仕事を行った経験は、研究室でも活かすことが出来ると考えています。</p>	
4. 本奨学金を受給したことで、以下の項目についてどのような影響を与えたか5段階で評価してください。（該当ナンバーに○） また、併せて評価の理由も書いてください。評価例：【 1（達成できなかった） ← 3（どちらともいえない） → 5（達成できた） 】	
① 目標の達成度	4
<理由> 資格取得と上級救命講習の受講を達成できたため。ただ、立命館大学での体験開催に向けた取り組みはほとんどできていないため、目標達成度は4と評価しました。	
② 計画の達成度	5
<理由> 体験会開催に必要な資格の取得と上級救命講習を受講したことで、リスク管理も考慮した体験会開催の一步を踏み出せたと考えているため。	
③ 取り組みを通じた自己成長	4
<理由> 体験会を開催するうえで、参加者の体調管理や安全面に気を配り、全員が安全で楽しい時間を過ごすことができるような環境を作ることが、最も重要です。身体に障害のある子供や、高所が苦手な子供の恐怖心を取り除くため、木の上でのシャボン玉や声かけ、子供と同じスピードで登るなど、自然を全身で感じることのできる工夫を常に意識し、サポートを行っています。この経験から、状況に応じて自分が何をすべきかを瞬時に判断し、行動する力を身につけることができました。	
10. 今年度の取り組みを通じて最も身についたと思う力について、具体的に記載してください。9の設問で回答した力でも、それ以外でも構いません。	
① 身についた力	周囲を俯瞰し、自分のすべきことを見極める力
② ①で記述した力について具体的に説明してください	
体験会では、毎回の参加者の体力や年代に合わせて構成を考える必要があります。また、インストラクター仲間のメンバーも体験会によって変わります。そのため、体験会ごとに自身のすべき役割を見極め、効率よく行動することが必要不可欠です。	
③ なぜその力を身につけることが出来たのか、成長を手助け・促進させた要因を記載してください	
何度もアシスタントとして体験会をサポートする中で、登る木や体験者に合わせたサポートの仕方を学ぶことが出来ました。そのため、状況に合わせて的確な行動をとる大切さを知ることが出来ました。	